

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4372500704
法人名	社会福祉法人 不動産
事業所名	グループホーム おとぎの国
訪問調査日	平成 21 年 3 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4372500704
法人名	社会福祉法人 不動産
事業所名	グループホーム おとぎの国
所在地	〒861-0302 熊本県山鹿市鹿本町津袋585番地 (電 話) 0968-46-1668

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号4F		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.9 人		

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝 食	円	昼 食	円
	夕 食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田クリニック、山鹿市立病院、はとの眼科、森歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

おとぎの国そのものの外観、中庭や吹き抜け天井からの採光の良さ、その中での一人ひとりのペースに合わせた生活支援が行われている。ホームのキッチンまわりや食堂には常に大勢が集まり、生活の知恵も活かした料理作りなど、会話と料理づくりで活気があふれている。食事ばかりでなく、地域周辺の四季折々の風景が楽しめる近隣への散歩や祭り見学等の行事が毎月企画されており、その場所場所での馴染みの人たちとの交流も図られている。地域の中での暮らしや人間関係の継続支援がこまめに実施されている。地域との連携もよく図られており、認知症啓発のための拠点ホームとしての期待が大きい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	終末期の指針等の整備では、「看取り(終末期)に関する指針」を作成し職員に対する研修も予定している。家族の意見を収集する方法は郵便受けを意見箱に併用することで投函を容易にする工夫をしたり、法入行事の中で家族同士が話し合える機会も設けている。介護計画を活かす記録の充実は、現在取り組み中であり、今後の成果を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員が取り組み管理者を経てホーム長がまとめた。客観的な振り返りとして研修や行事に関する意見等も交わされホームのあり方について意識向上につながった。自己評価を通じて様々な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	議題はホームの状況・事業計画や報告・外部評価の説明等を行っている。会議は活発な意見交換の場となっており、その中で取り上げられた、提案の中から3地区の住民を対象にした認知症の出前講座を実施、独居高齢者のための交流の場づくりにも繋がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や電話連絡の際に、要望等についても尋ねるように心がけており、忌憚のない意見交換につながっている。また郵便受けを意見箱と併用し投函しやすいように工夫したり法人の投書箱の設置も家族に伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	子供会や保育園との交流や、法人主催行事への参加での出会いや、ドライブ・地区の運動会や行事等に出かけ馴染みの人たちや住民との多様な交流が行われている。近隣地域での認知症出前講座の開催では、「地域のなかで暮らすこと」への支援につながり、地域との連携も図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を開設1年後に見直し、現在はホームに関わる人にも理解され暮らしの支援に繋がっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分たちで考えた理念であるため、ケアサービスの随所に活かされている。毎月の会議でも唱和し確認と共有を図っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会や保育園との定期的な交流のほか、地区の運動会や行事にも出かけて馴染みの人たちとの関係継続も図っている。法人の行事には家族や近隣住民の参加が多数あり、幅広い交流の支援がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が行い、客観的な振り返りの機会となつて職員の意識啓発につながっている。自己評価や外部評価で気づいた点は改善に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に定期的に行われ、状況や活動報告・事業計画・外部評価等を議題としている。会議は活発な意見交換の場として機能している事が確認でき、提案の中から住民を対象にした認知症の出前講座なども企画・実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県や市が主催する研修会やイベントには積極的に参加し、協力している。介護保険法の改正時には、役所への相談や知識の習得などを通して連携する関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話での近況報告の他、ホーム独自の広報誌を年5回発行している。入居者毎の写真と近況報告・金銭管理の報告書も同封して確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設に投書箱の設置を行っている。また家族の面会時や連絡時には近況報告を行い意見や要望も尋ね、運営や改善に反映させるよう配慮している。	○	家族ならではの悩みを話せる場を支援することで、ホームに対してだけでなく地域に対しての希望や要望が出るような支援も期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の安心できる馴染みの関係を維持するため、異動や離職を必要最小限に抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修には全員が参加し、県や市の主催の研修会やブロック研修会には交替で参加するようにしている。受講後はホーム内会議で資料に沿って報告し、共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿・鹿本・菊池ブロックとで研修や交流が定期的で開催されており、毎回参加して質の向上に向けた取組を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族ばかりでなくケアマネージャーにもホームを見学してもらってからの入居にしている。入居当初は特に家族との連携を図りながら、徐々に馴染める環境になるよう配慮し、居室を寛ぎやすい部屋になるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統料理や行事食を入居者と職員とで一緒に作ったり、夏祭りには舞台上で踊りを披露したりして相互信頼が図られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の会話やしぐさの中から、思いや意向の把握に努めている。さらに、家族の意見や職員の気付きも参考にして支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン担当者が本人や家族の希望や要望に応えるようなプランを作成し、職員はプランに添ったケアを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、要望や状況の変化に応じて随時対応できるような見直しも行っている。	○	プランに沿ったケアのアセスメント実施や職員からの意見も取り入れ、現状に即した見直しが行われることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地や隣接地に入居者が利用できる他施設や事業所があり、それらを活用した支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他、専門医の受診も家族と協力して通院介助を行い、その結果も共有するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年度「看取り(終末期)に関する指針」を作成し、契約時には指針に基づいた説明を行っている。今後は面会時や要望があった時などに説明を行い、今後職員研修も予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切に、プライバシーに配慮しながら寄り添うケアを心がけている。法人内で実施される研修にも参加し、記録の取り扱い等も慎重に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の状況や天候も考慮しながら外出や家事手伝いなどの気分転換を図っている。一人ひとりのペースに合わせた、その人らしい暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材から献立を考え、準備や片付けも入居者と一緒に行っており、楽しそうでもある。食事の前にはメニューの説明も加えられている。誕生会では本人の好む料理が出されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から入浴の準備をして出来るだけ希望する時間に楽しんでもらえるように配慮している。健康状態によっては、足浴の対応も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の中での役割を決めその場面の提供や、書道クラブ器楽合奏などの楽しみごと支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や気分に応じて散歩や日光浴・季節ごとのドライブや買物で外出の機会は多く、馴染みの人との交流や外食などでの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、入居者が外出しそうな場合は声かけして対応している。センサーも併用することで安全面にも配慮し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は法人全体で避難訓練や非常召集訓練を行っている。また地域の消防団や近隣住民にも協力を呼びかけ連携を図るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士のアドバイスを受け、入居者の嗜好を優先させた献立で、栄養のバランスに配慮した内容の食事となっている。水分摂取についても不足しないように注意して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、吹き抜け天井と中庭を中心に季節の草花が配置されており、明るく清潔で心地よく過ごせるようになっている。調理の音や匂いなど、五感への刺激や生活感も程よく感じる事が出来るようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具の他、テレビや仏壇、裁縫道具や本・写真・花など、本人の好みを優先させた居室作りへの工夫が窺える。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム おとぎの国
所在地 (県・市町村名)	熊本県山鹿市鹿本町津袋585
記入者名 (管理者)	松本 修一
記入日	平成 21年 3月 5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「理想とするGHについて思う一言」「自分が住みたくなる家とは」等について、スタッフが出し合い話し合った中で事業所独自の理想とする理念が生まれる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のGH会議等に理念の唱和を行い、日々のケアも理念に沿って実践できるよう努力しながら取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	GHの玄関と食堂に理念を掲示し運営推進会議や家族への便り等でも理念を公表し発送している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の知人がデイ利用の合間や、近所の知人が時折、野菜の差し入れなど兼ね立ち寄ってくれている。管理者自ら津袋地区出身であり、他に地元出身のスタッフもいる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前から地元の子供会行事、保育園や学生の訪問を受け、花壇作りや料理作り等で交流をしており、施設の夏祭り、どんどや、敬老会には家族や近隣の皆さんも多数参加されている。また、昨年度から(H19年度)は地区の運動会や祭り(催し物)にも見学、参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元高齢者の料理教室・サロン活動や認知症の出前講座等に併設施設の場所提供や見学会・勉強会等を行い貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることにより、別の視点からの見つめ直し、気づきがあり、スタッフの意識向上になっている。また、本来のグループホームの在り方等の勉強になり、さまざまな改善等に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や外部評価内容等も会議で報告し意見を求めている。地区の運動会や祭り(ふるさと自慢祭り等)への見学、参加はこの会議での話し合いから生まれている。	○	今年度から、近隣3地区の民生児童委員も会議へ参加されており、地域への貢献、また地域の意見等をより多く取り入れ向上を図っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県主催の研修会や市の福祉フォーラムなどに出席し、制度改正時にはサービス内容や対応などを相談し向上に努めている。	○	山鹿市が県下で認知症のモデル地域となり、GHや当関連施設からもサポートリーダー養成講座等に参加しており、知識、理解を深め共に向上に向け取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な方にはそれらを活用できるよう支援している	今年度、GH間(GH鹿本・菊池ブロック)の研修会で、権利擁護や成年後見制度を取り上げ勉強してきている。また、必要な方にはこれらの制度を活用出来るよう支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。	○	関連法の勉強と共に、身体抑制等禁止マニュアルで人権尊重の理念に配慮した支援を今以上に行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時共、十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や各家族の面会時に、その様な機会を設け、話しやすい雰囲気です接することを心掛けている。又、意見等があった場合は会議等に向け運営に反映させている。	○	今後も、より利用者が述べられるような機会を設け、意見等を反映していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	昨年度は年に4回、今年度は年に5回、利用者のくらしぶりや健康状態を記入した写真入りの便りや帳簿の写し等をご家族に送付し、面会時や電話でも近況報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	GHの玄関先や当関連施設に投書箱を設置しており、利用者の家族等が意見や苦情等を投書しやすいようにしている。投函があった場合その回答を掲示し、運営や改善に反映させている。	○	家族同士が施設内や行事等で集まれる機会をつくり、お互いに交流できるよう支援している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GHでの会議や打ち合わせでは、自由に意見を出し合える時間(雰囲気)がある。GHの理念はスタッフ全員の意見から生まれており、ケアプランや行事等に活用している意見も多い。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望等に対応出来るように、パート等の活用や勤務変更などを行い調節している。	○	今後も、利用者や家族の要望に対応できるよう取り組んでいく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合	異動や離職を最小限に抑える努力と共に、利用者の方が安心して住み続けて行けるように配慮して行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会(事例発表会)は、毎年続けて行っている。他の研修会やGHのブロック研修にも積極的に参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のGHと定期的に交流し、研修会も行いながら向上に向けた取組を行ってきている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会や食事会、ボーリング大会などを行い、スタッフ間のチームワークや気分転換を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の面談などの時に努めて行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階では、特に注意し時間を掛け対話観察等を行い本人が不安にならないような雰囲気、環境を心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当初に限らず面会時等にも、家族と語り合う(相談する)機会をつくり、要望などがあれば聴き安心されるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族と面談し、要望等をよく聴きながら、(前担当者(ケアマネージャーなど)からの情報があればそれも検討し)サービスを取り入れている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談をし、状態を見ながら、徐々になじんでもらう様に側面からの支援を行い工夫しながら、その人にあったサービスを勧めている。また、馴染みの品物や家具等があれば持ち込みをお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意の気持ちを忘れずに信頼関係を築くよう努めている。昔からの料理の方法を教わり一緒に作ったり、当時の流行歌の替え歌を教えてもらい、みんなで歌って楽しく過ごすときもある。	○	今年度の夏祭り(H20年8月)には、GHの入居者と職員と一緒に舞台の上に立ち、歌や踊りに参加した。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に写真入りの便りを発送し、来荘時には必ず近況を報告し家族とのコミュニケーションを深めるよう努めている。	○	夏祭りには家族を招待し一緒に歌や踊りを見て楽しんでもらっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	前述にもあるが、今年度、年に5回発送した写真入りの便りで近況報告、また、面会時等での情報交換を行い、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古里訪問を行い、また時々、地域の友人、前地区の老人会や前ケアマネージャーなどの訪問がある。	○	機会があれば、再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合える関係が築けるよう努めている	生活を共に行う中で、それぞれの相性を把握し、一緒に食事作りや片付け、又、外出やレクを一緒に行うことにより、助け合い、支えあえる関係が築けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関係の必要な利用者や家族の方との関係を断ち切ることなく、退所後も後方支援をしている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの性格、身体能力等に応じて、本人の意向を第一に考え支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族や以前の担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌や連絡帳に記入し、必ず全スタッフが目を通し把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話し合いの上で、本人や家族の要望に添えるようなケアプランを作成しスタッフ全員で協力し取り組んでいる。	○	次年度からは、市からの推薦介護計画であるセンター方式のケアプランに順次移行していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の要望等を聞く機会を持ち、体調や状態の変化に応じての見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADLや体調の変化など個人別に記録しており、変化に応じて介護計画も見直している。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設には多種多様なケアサービス体制が出来ているため、それらを活用し柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	以前から子供会、老人会、保育園、ボランティアなどの協力を得て、地域交流を行ってきている。又、必要であれば、他の機関や地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。警察・消防には名簿登録している。	○	昨年の4月からは、GH運営推進会議に近隣の民生児童委員(3名)の方も参加されている。今後も、地域資源との協力を深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の要望等があれば、利用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	関連施設共々協働している。また、昨年は、権利擁護等についてのGHのブロック間研修(H20年10月)で、地域包括支援センターの方に講師をお願いしたり、センター主催の認知症出前講座(H20年7月)では、場所を提供し地域の人々と勉強会を行ったりもしてきている。	○	今後も、必要に応じ取り組み協働していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関へは家族やスタッフが同行し、関係を築き適切な医療を受けられるよう説明を受け報告している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の要望があれば、主治医を通じて専門医の治療を受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関係する看護師やDrとも相談しながら健康管理、医療面の支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携している。入院時も訪問し、医療スタッフとの情報交換を行い本人との面談もし、できる限り早期退院ができるよう努め、退院1ヶ月後の経過報告を入院時の医療機関に情報提供している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と相談の上、方針を決め対応している。終末期もここで！と要望される家族もある。	○	今年度「看取り(終末期)に関する指針」を作成した為、次年度から職員に対して研修を組み込んでいく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、本人、家族等とよく相談しながら、要望に応じて出来ることはスタッフ全員で協力し支援している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居や退去などの移動時には担当ケアマネージャー、医療機関の関係者などと情報交換を確実に行って、住み替えによるダメージの防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを守ることをポリシーとしており、各々のプライバシーに配慮した寄り添うケアを心掛けて支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	GHでは選択メニューの食事を行ったり、外出先の食事では各々が好きな物を注文されている。服装のコーディネートも、ご本人と一緒に考え選んだりしている。	○ 今後も、ショッピングや趣味活動時など各々選択できる場面を考えている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や各々の体調に応じて、色んな手伝いや協力を行い身体を動かしたり、又時にはのんびりと日光浴をしたり、新聞や雑誌を読みながらと、各々のペースで過ごされることを…側面より見守り支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望の美容室に行かれる。地元美容室は、当方が送れば帰りは送ってくれる。カットのみか、毛染めやパーマにするのかも、本人の要望を聞いた上で決めている。又、誕生日会や外出時の化粧、服装なども相談しながら行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー、準備など相談し、協力しながら一緒に行ってきている。誕生日会には本人好みの料理を数品作っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しむよう支援している	本人の好みのものを楽しめる様、選択できる様にして、日々行ってきている。誕生日には、好きなもの食べたいものを言っただき、それに添ったメニューを提供している。又、正月や誕生日会には好みに応じアルコール類も準備し行っ	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、各々のパターンに合わせて、早めに声掛け誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	外出や特別な行事以外の日は、ほぼ毎日入浴の準備をしている。各々声掛けし、できるだけ好みの時間に入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には昼間のアクティビティ(活動的に過ごす)や入浴などで夜間安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのアセスメントを行い、歌や踊りの好きな人は皆さんの前で披露したり、書くことが好きな人は書道クラブに参加したり…などと楽しみ、気分転換ができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、3名は家族の協力を得て、一部現金を所持されている。ショッピング時には、各々自分達で支払い、それを見守っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節折々の花見やドライブ、外食、茶話会などを行い、又、本人の希望やその日の気分、天気などで散歩に出かけたり、日向ぼっこをしたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	世界の蘭展(熊本グランメッセ、H21年1月)は、皆さんすごく感動されていた。今年度は、芝居見物や古里訪問を行っている。又、ショッピング、病院受診、お墓参りや知人宅訪		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	12月に、家族や大切な知人に年賀状を書いている。便りを書くことが困難な方でも、支援しながら書いていくことで笑顔も見られ喜んでおられた。又、プレゼントや贈り物が届いた時には、都度お礼の電話など本人自ら出来るよう支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お友達やお客様がゆっくりと過ごせる様にラウンジにソファを置いてくつろぎのスペースを確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の身体抑制等禁止マニュアルを置いている。又、経営トップの考えでもあり、全スタッフは拘束しないケアを理解し行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(8時～20時まで)は玄関も施錠せず開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室は本人の了解を得て行い、利用者の所在や様子を把握する為の見守りも、目くばり気くばりを重点に置きさりげなく安全に配慮しながら行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室にある物品はほぼ全員が把握している。はさみ、爪切り、果物ナイフなどは安全を確認しながら、各々が必要に応じて使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故およびヒヤリハット報告書に記入し、職員間でも話し合い、又、一人ひとりの状態に応じプランに取り入れ事故防止(再発防止)に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当は職員全員ができるように勉強会を行ってきている。又、今年度は、GHのブロック間の研修(H20年8月)や施設内研修(H20年11月)で、AED救急法の手順を学び、すぐに対応できるようにしている。	○	今後も講習を受けたり、ドクターや看護師より教わり学習し備えていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で避難訓練、非常招集訓練を定期的に行っている。以前から地域の消防団や区民の皆さんにも協力が得られるよう働きかけてきている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各個人がのびのびと生き生きとした生活ができる当GHの理念に沿っており、家族にも説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックで健康状態を確認している。体調変化等のときは、すぐに主治医の指示や助言を得て、口答と連絡帳で伝達し、徹底したケアが行えるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用等についても会議などで話し合い理解に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりに応じた運動、訓練を行い、水分補給や繊維の多い食物を摂取するなど、心掛けて行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援	起床時、毎食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。理解の乏しい人には手ほどきや介助を行いながら清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスに注意し、季節感のある食材を取り入れ、工夫しながらおいしい食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いを励行し、スーパーソフト水を使用し、清潔に心掛けると共に、高齢者介護施設における感染対策マニュアルに沿って予防や対応を行ってきている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾、食器等の消毒は定期的に行うと共に、天日干しも実施している。食材も冷蔵庫の中を確認し、賞味期限、鮮度を考慮し調理を行い安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地が広く、駐車場もあり、近隣の方々も休憩されるようベンチも設置している。玄関も段差が無くスムーズに出入りができる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二つのリビングがガラス越しに眺められ、明るく衛生面に優れており、自然な光や風、季節を感じて過ごされるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横のベンチでは夫婦で日向ぼっこをしたり、リビングのソファでは気のあった方々で談笑されたりして過ごしておられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、布団等を思い思いに持ち込み使用されている。又、本人が居心地良く、且つ安全に過ごせるよう配慮し、家族とも話しあっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇はトイレでは常時使用している。天気の良い日には、数回、室内の空気を入れ換えたりし、こまめに外部との温度調節を行っている。	○	冷暖房は器具使用を続けるのではなく、少しは衣類で調節したり、くつろぐ場所を移動したり、身体を動かす(運動をして…)暖まってもらうなど工夫し調節してきている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、床部分等は段差もなく車いすでもスムーズに移動でき、要所要所には手すりが設置してあり安全に一人で歩行できる。	○	手すりは起立訓練、歩行訓練等にも利用し、運動と足腰の強化を心掛けている。又、広めのテーブルはボール遊びや各種のゲームなどにも活用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	3カ所のトイレは一目でわかる位置に設計しており、各々の居室のドアには氏名の他に、スタンドガラスで個別の表示を行っている。	○	迷いや失敗の時には、さりげなくサポートしており、次の会議などで対処や改善方法などを話し合っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外には布団や洗濯物の干し場があり、玄関前の芝生の庭やベンチは外気浴や散歩に適している。天気の良い日には庭の花々をながめながら茶話会や弁当開き(食事会)を行っている。	○	建物の裏庭部分には、葡萄とプラムの木や野菜を植えている。各部屋からも成長がわかり、収穫時を楽しみにしておられる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

GHの建物内部は、明るく開放感がある。機能的にも優れており、衛生的である。また、ホームでのサービス（援助）は、理念に沿って、高齢者が暮らしやすく、ストレスを感じないようなゆっくりとしたリズムで、時間を掛けて提供している。家族やなじみの知人との交流は自由で、近くに病院もあり医療面での不安も少ない。スタッフ自身が高齢者となって住みたいと思う理想的なグループホームを、ハード面ソフト面共に実践している。